

社会福祉法人敬寿会

創立二十五周年記念事業

創業の地 敬寿園 (山形市妙見寺)

法人供養碑を建立



平成30年7月1日(日)、敬寿会の“法人供養碑”が発祥の地 敬寿園に出来上がり、除幕式を行いました。

理事長挨拶

「このような立派な碑が出来上がりましたのは、関係者の皆様のご支援ご協力がありました賜物です。心より、御礼を申し上げます。今年、法人はお陰様で二十五周年を迎えることができました。これまでの歩みを振り返れば大勢の方々のご尽力です。

前理事長・金澤敬一がこれからの世の中で、必ず必要となる介護、介助を何らかの形で貢献したいとの思いで創めたのが敬寿園です。創業者・金澤敬一の精神“まごころ”と“おもいやり”の心をいつまでも忘れずに、全職員が心をひとつにするのが願いです。30年、40年、100年続く“最高の施設”を目指し



て行きたいと思えます。縁あって敬寿会の施設をご利用いただいた方々、日夜働いてこられた職員、これまで運営に協力いただいた方々など、すべての人に感謝するといふ趣旨で建立いたしました。法人の供養碑の円相は空、風、火、地など世界全体の究極の姿を表し、禅の悟りの境地と言われますが、見る人の心で、自然や人生、様々な人に対する思いなど、自由に感じていただければと思います。この供養碑の建立に当たっては、敬寿園のご利用者さまと、敬寿会の理事、評議員の方々、敬寿会とお付き合いのある関係企業の方々から、多くの浄財を寄附していただきました。供養碑ともども、いつまでも皆様と敬寿会を見守っていただけたらと思います。本当にありがとうございます。

供養碑作者

この法人供養碑の構想、企画は、舟形町にあります有名な“さばねやま地蔵尊”の堂守で、僧侶であると同時に、東京造形大学出身の若き、石のアーティストの“梅津りょうげん”さんの作品です。

また、この供養碑の制作は、新庄市の株式会社 かん石材さんが担当しました。社長の管信二さん以下の社員は、カンボジアの世界遺産のアンコールワットの修復にも携わっている素晴らしい技術の皆さんです。インド産の黒御影石を丁寧に加工していただきました。

素晴らしい作品が出来上がりました。

緑化・整備ボランティア

供養碑の周辺の緑化や整備は、山形市のボランティアグループの“自然と人間を学ぶ会”の方々に協力していただきました。お蔭さまで、大変美しい庭になりました。会長の佐藤清道様、会員の皆さん、ありがとうございました。



ボランティア風景

法人供養碑除幕式 当日の風景

